

開催趣旨

食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現させるための政策方針「みどりの食料システム戦略」を踏まえ、畜産分野では持続的な畜産物生産への転換に向けて、国産飼料の生産・利用の推進を図ることが重要である。

近年の温暖化の進行にともなう高温や多雨の影響によって、牧草の障害や病害の発生による夏枯れ等により草地が早期に荒廃しやすく、かつてより生産性の維持が困難な状況となっている。重要な国産飼料資源である草地をフル活用するためには、気候変動下において草地の生産性を維持、向上させる対策が必要である。気候変動への対応に加え、草地の利用拡大に向けて、より高品質で良質な牧草が求められている。それに応えるべく、新たな牧草品種の育成とその利用技術の開発が取り組まれてきた。

そこで、本研究会では、気候変動下において高品質で生産性の高い草地利用に関わる新しい品種や管理技術について情報共有を図り、安定的な草地管理について議論する。加えて、草地利用におけるセンシング技術、新しい育種技術および飼料用トウモロコシ新品種に関わる情報について紹介する。

主 催

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門

共 催

自給飼料の生産性向上研究開発プラットフォーム

日 時

令和7年11月25日（火）13：00～17：20

令和7年11月26日（水） 9：30～11：30

場 所

新宿区四谷区民ホール

参考範囲

農林水産省、独立行政法人、国立研究開発法人、都道府県、大学、団体
民間等の関係者

次 第

第1日目 11月25日(火)

開 会

挨 拶

農研機構 畜産研究部門 所長

13:00

13:00-13:10

石井和雄

行政施策の紹介

(座長：農研機構 畜産研究部門 畜産飼料作研究領域長
飼料をめぐる情勢)

農林水産省 畜産局 飼料課

菅野 勉)

13:10-13:40

植木 智也

温暖化にともなう気候変動に負けない草地管理に向けて

(座長：農研機構 畜産研究部門 畜産飼料作研究領域
猛暑環境下における牧草の障害と対応)

雪印種苗株式会社 事業本部 トータルサポート室
放牧と追播に適した北海道向けフェストロリウム新品種「ノース
フェスト」

農研機構 北海道農業研究センター 寒地酪農研究領域

温暖化に対応したペレニアルライグラス「夏ごしひペレ」とフェス
トロリウム新品種「なつひかり」を用いた草地メンテナンスと周
年利用栽培

農研機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域

(休憩)

ドローンを活用したライグラス類播種技術

一般社団法人 日本草地畜産種子協会

気候変動下における温暖地での暖地型牧草等の利用技術

農研機構 西日本農業研究センター 周年放牧研究領域

農研機構 畜産研究部門 畜産飼料作研究領域

(休憩)

総合討論

事務連絡・閉会

14:10-14:40

眞田 康治

14:40-15:10

東山 雅一

15:10-15:30

15:30-16:00

元村 聰

16:00-16:30

平野 清

中神 弘詞

16:30-16:45

16:45-17:15

17:15-17:20

第2日目 11月26日(水)

研究・技術紹介

(座長：農研機構 畜産研究部門 畜産飼料作研究領域

ドローン空撮画像を利用した採草地のマメ科率のマッピング技術

帯広畜産大学 環境農学研究部門

次世代育種に向けたスマート評価ツール「HojoLook」

農研機構 北海道農業研究センター 寒地酪農研究領域

(座長：農研機構 畜産研究部門 飼料連携調整役

種子の落ちない牧草を目指して：難脱粒性イタリアンライグラス
の研究開発

農研機構 畜産研究部門 畜産飼料作研究領域

飼料用トウモロコシの新品種－北限でも栽培可能な超極早生品種
「ハヤミノルド」、雌穂収量が高く多用途な品種「トレイヤ」－

農研機構 北海道農業研究センター 寒地酪農研究領域

閉会

北川 美弥)

9:30-10:00

川村 健介

10:00-10:30

秋山 征夫

須永 義人)

10:30-11:00

田村 健一

11:00-11:30

黄川田 智洋

11:30